

令和 7 年度第 2 回豊田市環境審議会 会議録

【日時】 令和 7 年 9 月 29 日（月） 10 : 00～12 : 00

【場所】 豊田市役所 南庁舎 5 階 南 51 会議室

【出席者】

（委員）

千頭 聡	（日本福祉大学 国際学部）	《会長》
渡部 教行	（豊田市自然愛護協会）	《副会長》
杉山 範子※	（東海学園大学 教育学部、 名古屋大学大学院 環境学研究科）	脱炭素社会 部会
赤坂 洋子	（NPO法人 とよたエコ人プロジェクト）	
宇井 妥江	（市民公募）	
遠藤 隆幸	（中部電力パワーグリッド株式会社 豊田支社）	
近藤 元博	（愛知工業大学 総合技術研究所）	
増田 理子	（名古屋工業大学 社会工学専攻）	自然共生社 会部会
大坪 瑞樹	（豊田市自然観察の森）	循環型社会 部会
谷口 功	（椙山女学園大学 情報社会学部）	
梅村 良	（とよたエコライフ倶楽部）	
杉浦 正春	（豊田市区長会）	
竹内 徹	（市民公募）	
長谷川 陽一	（あいち豊田農業協同組合）	

（計 14 人）

（事務局）中川環境部長、近藤環境部副部長、松井環境部専門監、
塩谷環境政策課長、浅井環境保全課長、青木廃棄物対策課長、金原循環型社会
推進課長、長嶋清掃業務課長、宝木清掃施設課長 ほか

【欠席者】 1 名

前田 洋枝 （南山大学 総合政策学部 総合政策学科）

【傍聴人】 0 名

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題
- 4 その他
- 5 閉会

【議 事】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題

(1) ①各専門部会の審議結果について【報告】

会長	議題（1）について、部会長から説明をお願いしたい。
委員	（資料 1－1 に沿って脱炭素社会部会の審議結果を説明。）
委員	（資料 1－2 に沿って自然共生社会部会の審議結果を説明。）
委員	（資料 1－3 に沿って循環型社会部会の審議結果を説明。）
委員	SDGs の目標年となる 2030 年まで残り数年しかない中、目標達成の手ごたえや現状の立ち位置について確認はできているのか。
事務局	市では SDGs の達成に向けた計画に基づき進捗管理を行っている。10 月には国際首長フォーラムにおいて、その進捗状況等を国連に報告する予定である。
委員	脱炭素社会部会ではゼロカーボンの達成が困難ではないかという懸念の声が多く挙がり、活発な議論が行われた。ゼロカーボンをはじめとしたハードルの高い目標に対して、そういう社会を目指すことが重要である。パブリックコメントで多くの市民の意見を頂いたということは、多くの市民に環境問題に対する危機感を共有できしており、一歩進もうとしている証拠とも受け止められる。市民や企業とともに、アクションを加速していった、指数関数的に先行した大幅な改善を期待したい。

(1) ②部会を踏まえたパブリックコメント等の対応について【報告】

会長	議題②について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料 1－4 に沿って説明。）
会長	パブリックコメントの結果は市民に対してどのように公表するのか。
事務局	市ホームページ等で公表する予定である。
委員	寄せられた意見の総数は 188 件と多いが、そのうち約 8 割はエコットのイベント会場で実施したアンケート結果によるものとある。仮に当該イベントがなかった場合を考えると依存しているように思える。また、イベント参加者は比較的環境問題への関心が高いと

	考えられるため、一般的な意見を多く受け取れるようにするためのツールを活用した意見集約を行っていくべきではないか。
事務局	パブリックコメントはホームページを活用して募集している。イベント参加者は必ずしも関心が高い方のみが参加しているわけではないと考えているため、広く一般的な市民の意見を頂けていると考える。

(2) ①前年度評価について【協議】

会長	議題(2)①について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料2-1、2-2を基に説明)
会長	資料2-1について意見があれば。
委員	「安全・安心社会」分野のまちの状態指標に「周辺環境への満足度」とあるが、「周辺環境」の定義が不明瞭のため人によって捉え方が異なる。市としてどのように捉えているのか。
事務局	本指標はアンケート調査で得られる指標であり、現行計画の策定時のアンケート調査からの進展を図ることを目的にこのような表現を継続してきた。次期計画では、水質や大気といった環境要素に細分化して把握することになっている。
委員	たばこのポイ捨てを課題として取り上げているが、自分の周辺ではごみのポイ捨ての方が多い。課題を踏まえた方針としては、ごみ全体のポイ捨てに切り替えてほしい。
事務局	代表的なポイ捨て事例として、このように記載しているが、ごみ全体として対策を実施していきたいと考えている。
委員	今年に入ってから道路陥没問題の話題が多くなっている。また、最近では、洪水に伴う地下駐車場の水没もニュースに取り上げられている。良好な生活環境に関連して、市の考え方を聞きたい。
事務局	道路陥没に関連した対策は県とともに上下水道局で調査している。また、地下駐車場は、市役所は総務部、民間は産業部が所管しており、対応に向けた検討を行っていると言っているが、詳細不明である。
委員	防災や生活環境保全に対しては部署の枠を超えて対策が検討されることを期待したい。
委員	指標に関連する資料は一体的に見えるように工夫してもらいたい。
事務局	みやすくなるように工夫する。
会長	生活環境に係る苦情は微増しているとあるが、その内容は法的措置レベルに至らないような、小規模な近隣の環境問題であり、特に懸念する状況にないという認識で良いか。

事務局	苦情は様々であり、そのような問題が全くないわけではない。内容に応じて適正な対応をしている。
委員	「共働」の分野において、環境学習の質の向上に関して、「地球温暖化の理解度が80%を超えた」とあるが、どのような調査結果に基づくものか。
事務局	エコットや自然観察の森に来館した学校の生徒にアンケートを実施した結果を反映している。
委員	学校に出入りする機会が多いが、「理解」まで至っているかという と、実感としては80%もあるように思えない。実態を正確に把握 するため、アンケート調査の設問方法に工夫が必要と考える。
委員	アンケート調査上、細目をとることになるが、年齢も様々なので年 代別に工夫していくことを検討してはどうか。
事務局	今後相談させて頂きたい。
委員	インタープリターの登録者が直近で90人とあるが、実際に活動し ている方は多くないように思える。今後は登録者数と活動者数を切 り分けて集約すべきと考える。
事務局	実態把握に向けて今後相談させて頂きたい。
委員	目指す姿に環境学習施設の充実化を掲げているが、エコットと自然 観察の森以外にどのような環境学習施設が挙げられるか。
事務局	関連施設としては、豊田市博物館や、市所有施設ではないがトヨタ の森が挙げられる。そのような関連学習施設と引き続き連携して環 境教育を推進していきたい。
委員	パートナーシップを結んでいる自治区が12とあるが、市内の自治 区総数を鑑みると少ない。どのような理由か。
事務局	正しくは、豊田市地域自治区条例に基づく12地域自治区を示して おり、市全域を網羅できている。表現は修正する。
委員	エコットの表記がカタカナとアルファベットがあり統一してほしい。
事務局	統一する。
委員	SDGs ポイントの新規登録者数の伸びが鈍化傾向にある。今後の拡 大に向けた改善を検討しているか。
事務局	SDGs ポイントの新規が伸びない理由について、お友達紹介キャン ペーンなど、様々なキャンペーンは実施しているが、伝え方に課題 があると思う。現在約3万件の登録があり、実際にポイントの使用 実績が見られるのは1割程度に留まっていることから登録して 終わらないようなPRが必要と考える。
委員	「とよたエコフルタウン」が終了し、学習拠点を博物館に移してい るということだが、移設したことによって市民への環境意識への変

	化や効果はあったか。エコフルタウンは環境を考える拠点施設がまちなかにあったことに意義があったように思えるため、行政施策として在り方を考えたほうが良い。
事務局	エコフルタウンの移設前後による効果といった評価はできていない。博物館では、エコットや自然観察の森と連携して、標本やはく製の期間限定展示などを行っており、博物館に立ち寄ることで他の環境学習施設を知れる機会を創出できている。
委員	市民が学ぶ機会や場所を改めて検討する必要がある。現状の施策は小学生にフォーカスされているように見えるが、脱炭素セミナーといったすべての世代が触れられる場所や機会を提供できているものがあれば、関連施策として計画に掲げるべきと考える。環境行動と言う意味では、物を買うこと、選ぶことの中心は大人なので、大人に伝えていくことが必要なのではないかな。
事務局	エコットも自然観察の森も、小学生だけを対象にしているわけではなく、大人も含めた方々への知識の提供の場としている。ただ、市としては小学生といった将来の世代への環境学習が重要であると考えており、前端的に打ち出している。
会長	一度リストアップして整理してみてもどうか。市内にはたくさんの環境学習できる施設や機会があると思うので市民の多くが活用できると考える。
委員	出前授業で豊田市版SDGs研修カードを活用して学校に行く機会が多いが、最近は小学校よりも中学校からの依頼が多い。また、基本的なことを先生が理解していないので、来てほしいという依頼を受ける。未来都市推進課の取組だが、縦割りではなく、一緒にやってもらえると良いと考える。
会長	SDGs は分野が幅広く環境セクションだけでは受けきれないと思うので横の連携に期待したい。
委員	SDGs ポイントの魅力が増えれば登録者数も増加すると思う。食べ残ししない人にポイントあげるのも良いと思うが、講座に参加する等の一歩踏み込んだ取組に対してポイントがもらえる、という形にしたほうが良いのではないかな。
事務局	ご意見を踏まえて検討していきたい。
委員	環境学習の理解度について、市民目線の身近な問題になると関心が高くなるので、自分ごとになるテーマを取り上げて理解度を上げていくと良いと考える。 また、特徴的な取組の市内外への発信とあるので、豊田市の特徴的な取組を具体化し、しっかりPRしていくべき。
会長	今後の宿題にすること。

委員	学習機会という点で、山間地域の方々にとって学ぶことができる環境は都市域の方々と異なることをしっかり認識していく必要がある。次期環境基本計画の環境像達成に向けて、市域全体で意見や要望を吸い上げてほしい。
会長	山村地域なら、都心に行かなくても、身近の田んぼで学べることも多いと思う。各地域特性を踏まえて検討が必要と考える。
委員	害獣とされるイノシシは動物愛護の面で対策が難しいところがある。農業振興課では対策を進めているが、環境セクションでも取り上げてほしい。
事務局	庁内関係部署の中で協議をするが、どのような方向性にするかは議論が必要だと考えている。
委員	獣害対策においては猟師不足が課題である。一般の免許保有者との協働も考えられたが、猟友会の権利侵害にもなるので難しい。人手不足が顕著になっているので、豊田市でも、若い人材の育成を進めていく必要があるのではないかな。
委員	権利や愛護問題といったあらゆる側面が各主体同士で意見が対立している。すみ分けに向けた検討が必要と考える。
委員	農作物だけならまだしも、人的被害を懸念している。生態系のメカニズムを解明して、環境分野でも取り上げる必要がある。
委員	クマ対策も、市内被害は聞かないが、今後被害が広がらないうちに対策してほしい。
会長	クマを駆除すると苦情が殺到して対応に追われる行政が多々見られる。そういう側面からも付き合い方が難しい問題である。市の中では、農業サイドは農政企画だが、総合的にはどこが所管するのかははっきりしないのか。
事務局	有害鳥獣は農政部局、クマは希少種であるため環境部局で所管している。また、ニホンカモシカは重要文化財なので文化財課が所管しているなど、法体系が入り組んでいるため複数所管課があるのが現状である。
会長	関係部局で横の情報共有を必要に応じて行っていくべきと考える。

(2) ②答申案について【協議】

会長	議題(2)②について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料3-1に沿って答申案について説明。)
会長	文書の中の(案)は不要と言うことで良いか。
事務局	不要である。
委員	昨今の社会情勢変化の速さを踏まえると、従来の10年サイクルは不相応に思える。短期サイクルで見直していくべきでは。

事務局	環境基本計画は、理念や施策の柱といったこの先10年普遍なものとして想定しており、常に進行管理を行う施策や事業については、その時々に応じた柔軟なものに適宜見直しを図っていく。
会長	答申案に意見はなかった。後日、会長及び副会長が代表して市長へ答申したいと考えるがよいか。
	(異議なし)

4 その他

	(意見なし)
--	--------

以上